

来言
未宣

現在

光を生み出す

匠の技

人間国宝・山本晃さん
光市が生み出した偉人の
独占インタビュー

冷たい金属に 温かな命を吹き込む

人

人間国宝という重厚な響きをよそに、「いらつしやい」と

気さくな笑顔で出迎えてくれた山本さん。切嵌象嵌、接合せと呼ばれる技法を用いた独自の作風が評価され、平成26年に人間国宝に認定されました。「もともと興味があり、好きだったんで寝るのも忘れるぐらい、無我夢中でやり続けましたね」。

地元の高校を卒業後、東京で工業デザイナーとして就職。「制約が多く力を発揮できない」と感じ、30歳

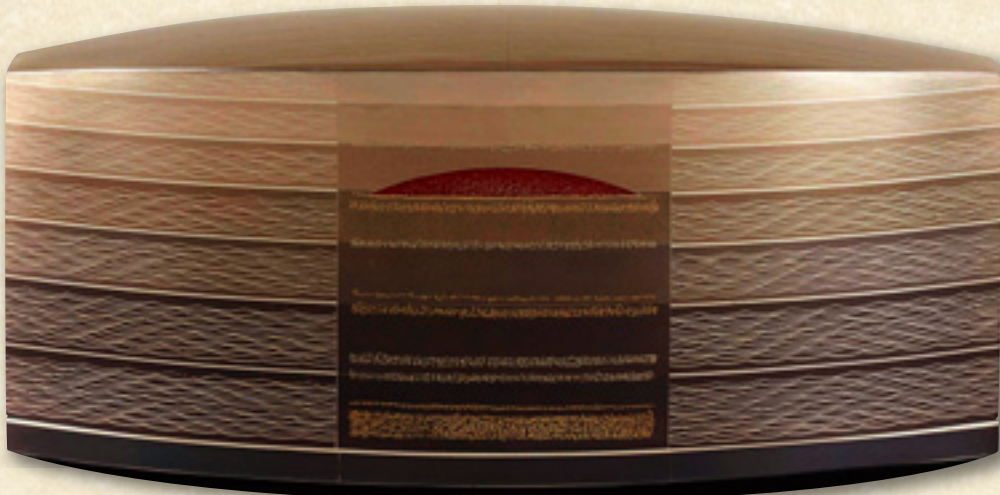
の時、自由度の高い彫金家へ転向します。独学で編み出した金・銀・銅の絶妙な組み合わせによる色彩と、0.2ミリの誤差も許さない繊細な技術から生まれる模様やグラデーシオンはまさに圧巻です。「毎朝5時に散歩しています。光市の風景は本当に美しい。見ているだけでアイデアが湧いてきますよ」。その故郷への想いが作品に命を吹き込みます。「辛いと思



えるかも知れないけど、僕は楽しくて仕方ないんですよ。好きであれば何だってできる。今の若い子たちも、自分が心から『好きだ』と言えるものを見つけて欲しいですね。光市の自然をこよなく愛し、少年のような笑顔で制作に没頭する山本さん。「誰もが美しいと思える作品をつくり続けたい」。人間国宝・山本晃の飽くなき挑戦は、まだ始まったばかりです。

▼第19回 MOA岡田茂吉賞大賞受賞 切嵌象嵌接合せ箱「夕凧」

無風の水面を静かに煌めかせる夕日のグラデーシオンが美しいこの作品は、室積海岸からインスピレーションされたもの。全て手作業とは思えない繊細さと、山本さん独自の色彩により、ふるさと光の夕凧を表現。箱を開けると港に帰る舟や水面に浮かぶ島々のシルエットなど、また違った表情を見せてくれます。



▲輝翔の詩

光駅前広場に設置されているモニュメント「輝翔の詩」。高さ約7mで「白い砂浜、豊かな川の流れ、波のうねり、太陽光線の屈折による虹」などが表現されています。



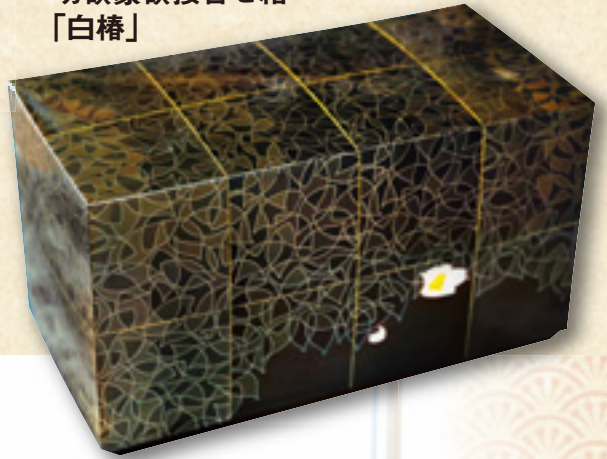
▲愛用のヤスリ

◀山本 晃(やまもと あきら)さん

光市生まれ。工業デザイナーとして東京で就職し、その後彫金の道へ。帰郷後十数年、山口芸術短期大学の講師を勤めるとともに、自身の工房で彫金教室を開くなど、後進の指導を行っています。

昭和60(1985)年第32回日本伝統工芸展で初入選を果たして以来、連続入選という快挙を成し、その後数々の賞を受賞。独学で編み出した技法と、独自の合金による詩情あふれる作品制作に挑み続け、平成26(2014)年、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

▼第56回 日本伝統工芸展入選
切嵌象嵌接合せ箱
「白樺」



人間国宝
山本晃
【彫金家】